

巻 頭 言

2020年より5年間会津大学でお世話になり、今年4月より岡山大学の惑星物質研究所(三朝)に異動しました。そんな中で今回の巻頭言、さて何を書こうかと迷っていたところ、あるきっかけで自分のこれまでの研究を振り返る機会がありましたので、それらを書いてみたいと思います。振り返ると、学生時代の地球の変成岩研究から、日本初的大型月探査機「かぐや」に関わったこと、その後搭載機器の1つであるマルチバンドイメージャの開発責任者を担当したこと、その後今までの研究活動は、予測していないことの連続でした。その間、本当にたくさんの幸運と研究仲間恵まれて、研究を続けてこられたことに感謝しています。

最初に参加した月周回衛星「かぐや」では、リモートセンシング技術を学びました。昨年、世界初のピンポイント着陸に成功した「SLIM」では、月面岩石の高空間分解能の分光観測を行うことができました。月極域で水氷の有無を調査する月極域探査機LUPEX計画も進行中です。周回、着陸、ローバによる月面移動探査と、発展する日本の月惑星探査を間近で体験することができたわけですが、思い返すと私自身は、「面白そうだから」という単純な気持ちで活動してきた気がします。単純すぎたと反省する部分もありますが(失敗もあります)、これまでに得たかけがえのない経験を思うと、時には単純な決断も悪くないと思っています。

最後は今後ですが、惑星物質研究所には惑星表層環境部門が新設され、私が5人目の研究メンバーです。会津大学で始めた研究活動(LiDARによる地形データと分光観測による岩石種の同定情報を組み合わせて可視化・解析する研究、レゴリスの挙動を評価する真空チャンバの開発など)は引き続き、会津大学の皆さんと一緒に続けていきたいと思っています。一方で、新天地で新しい分野の皆さんとのコラボレーション研究にも挑戦したいと思っています。全ての始まりは「面白そうだから」。

大竹 真紀子(岡山大学惑星物質研究所)